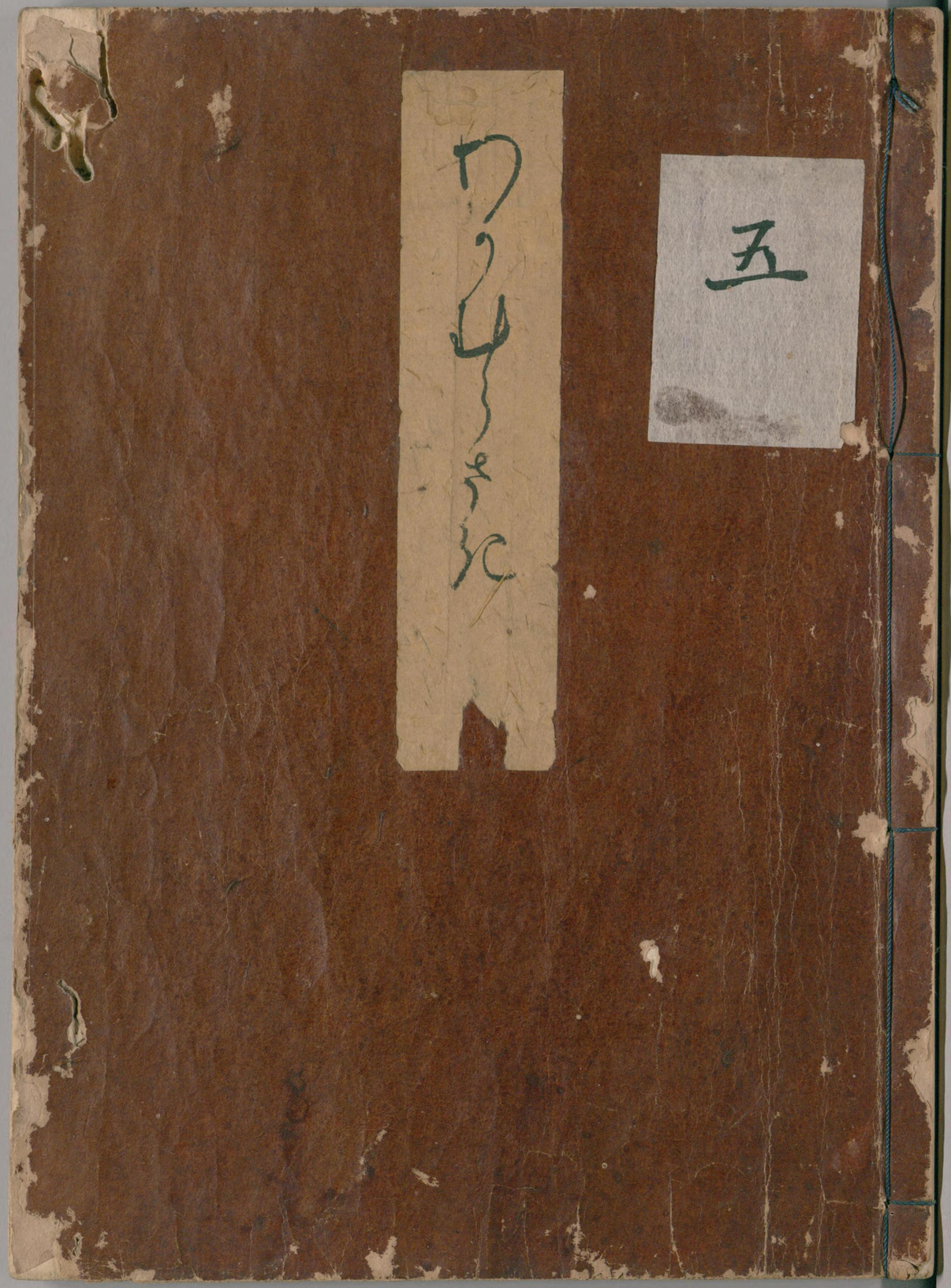

国立国会図書館　　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

第五

共五十冊之巻

渡利邑

松浦氏

2011.2.8 国会図

[illegible]ろうやをこのうらひろくしつらひ(特)ちなどはいとせばくへどもきよらにおこなひのつきづきしくあるに人かずなくてうちとけたるところのありさまなどあはれにおかしうおぼえたまふ(夏)のなつもあふれあるまでんくもとやうでてとくひろたくひあまりはちすのさかりなどはみさを(疾)ちかきあたりのあまそのつゆはらひ(涼ヨリ)などしたまひて(僧心中老)ひぐらしいうくとなきちらすにやれさ(涼汚)まざまにむしのこゑをつくしたまへるなどもいとしげくあはれなるに(シ)ましてこの(涼ノ)ほとりのありさまなどはた

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

[illegible]ひやくねうう山へ
なれ衣の花のうつろをみるおりは
まづゆるるそうきりそなれ
のさすさひもれうつうう
もなくひねうず西せ衣ん
さまでもおもふ人ぬれへうれ
ひめうねうやなとまでらんうさ
あさ我思ふくひとうたの

験方

もんれそのてうかうれはまつこんとだに
ろさえさそうろこうこ
たとこなりろさろ
うちなんうひさうくはつ

徳聖ろ

聖ノ添ノ

符心

「飲

ろうせをり

月

さうくみるくねうう
うてゆもうくもうこ
ゆうのさもおうこ
志ろくてさよをなるやう
ちいおそうろをなおんへ
いゆともなる人あまそんな
をこうゆうろゆうろ

坊

原羽

屋扁

木立

緑のうの二

大徳寺

添

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

なんもくへつるものとやせ(係)
とひおろ(良情朝)うへあるそ
なくの国のほうのさなとそ(用言)
をみすともろへようけ
つるとうるなおうる
うきまるさ後(係)なりも
ほうとけをあの思ひをえ
よいつねつよゆいふ
ゆまい思(係)もおへとさくへ給
又王母ナト来心成ス人ノ方ニアメリケル方ニ国ノ王ニ人トモニ是ンカンまちを(海)ケルホトニ安倍ウセヌ
大河ノ方ニシケル事ヲ中ヲ又王母ノ国ニ人ノ王ニ行向フれむし久ル事有吉洋天女ガ

傳ニヤ伝フル女也霧物ヲ八歳ノ女ノ母モ王ノ妻
人もとこととうとうとりもし
ろ物なれそうの入るうゆ
ひうんうさそうからんとひあ
つるとやさいふ(文)(元)(女)(カ)(浮)(ノ)(付)(人)(チ)(ク)(ニ)(ツ)(ノ)(ヲ)(ト)(ン)(ヲ)
ろさるおひ出くゆる
まうひさんへうるけま(方)
見うやうへなみやあ
ろうまれきたつ
てなれおけなん(ホイ)
くそ(三理ノ国司ニカハリテハ)
ひりてうこまそ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

ソヘノミルメモハツカシク弥ニ生メルワカメシソヲム　六拾十二
こみるめもものうらなべくるしひの
（旦下ノ心モ）らびおほしたつうやうくをむ（カトモ読ム）
ひかこととものみ紗（俗）汚ひ（ミ）
ぬらんをやとみさくまろるこの
あるく紗汚（ワヤミ）なりめるまうそや（教）色
らを汚（ヒ）るんとうくとたとこと（シン）
いまろさ海まおくまあれを
ほのようらなくおのて出さをの人
なれあやくみお人（汚左ニ）やひ（原）もまう
もみにそのふおくてあういはうのほさみとの
汚目まいやなうまふつれくなの夕暮のいう

うすこくるまろされくうのこ紫うえ入の紅とうな色
出のくくいへくしおく姓名のめ（ア）色とのうさ汚へ
さくあのまおもてますもち仏すへ（エ）をわくれ
てなあさなそのすれをまろあうなう（中）のはらうくう
う色の袍をくさてうやなやま（悩）
尼ぬくく人とをみこそ（ヨノデ）空千うも
そめくるや（脇）をられとうくうさうの
あやうこのうくくきふそのぬ
なうさるもこよう（会釈）うくみそのうと
衣うえ給さよのなうなこお（女房ノ）

[illegible]源氏のやうにやさしくいうさうしきこえをゆるいうそ思ひ
けるそ[illegible]いさうしきこえをゆるいうそ思ひ
給はれいうをゆるして[illegible]うしきこえをゆるいうそ思ひ
うもまでざりけるよの海(尼)
やうきさ海と人やみうら
つまの(侍)をふのうきちのふひ
まみさくさうう給(尼)うんや世をそそる法師の心
ちうもいみ[illegible]うをのうまへ
人のゆうきまなり(侍)いくはせうこやもしむとく
うをそすれ(三言)ほ(ノ大徳ノ寺)う色つ給(尼)
ろうなめくまへ(重衡)のすれ
のそそうくさうまへ
のをみつくるなちそう
なさ所うつよちいめなめ
こをもみるようたのうう
うくるほろちこう(仕示)
のをのうふあをくれのな
思よひ(法)うう(付)ほ(ノ外)
まあまみうをうひいくさ
もやうて(侍)過(未ダ尺ト見ハ不)
今うん人やをたとろ
なおう(侍)
うものそをそうまへ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

おもひまうけたりしもうの姫君
をもてあそびなれきこえたまへる
日の経るまゝにはやをとまさりつゝ
ものなれてうへをうらみきこえ
まさるふるまひをのみ見ならひ給ふ
ものゆゑ(ゆゑ)うしろめたくなん
もてそこなはれ給ふ(給ふ)ことなどもやと
人なれをかしくおぼしなりぬ
(侍)

僧都の
おもてもをかしくあをまきりてのゝ
やしろのそらおそろしく大徳ト
栄入いりぬるなりけり
(僧ノ名ハ侍ルヲお角ニ書キ二ノ沈
沈ノ字ハ角ニ書キ二ノ沈ノ字ハ角ニ書キ)
氷のなれるほどうれしき
ものゆゑまもるべき人
なんとまちうけ給へるに
なにごとをかはおもひ
なれ給ふらんとおぼすに
も(も)のうくてやをとなひ
もせずうちなげきて
ゐたるまゝにあかしかねたり
(寺)
つとめて僧都
(寺)
ゐ給ひて
なをこゝろみきこえ給ふ
(給ふ)ものから
(給ふ)

まふうちくも(方納言ナト)ひつゝひすべりの給ふをの
つゆひたはぬ(ミ)物後(ノ)世のまゐ(ア)なとやうにせ給我(ア人ア)
ほとゝきすなとをおそうう(タ)あちきなくふしてと
めそいのふうきあまたを思ひなやむへくもあら(ン)す
まゐく姫のうへのいとうつくしけ(ア)うるまよとなかけ
てうつうなるすさまもせまりうおほし給物
うつゝの(ケ三)夢ひようりてこひしきいふ(涼信ニ云)くよ
御ふみそれすうちねみし給(ヒ)て愛(ア)敬(ゼテ)み給
おかしからんとやおもひ給(修行)へ
わくらひくうちほをなう給(ミ)愛(ア)敬(ゼテ)
さうをのそ(ヒ)てもおむ(ミ)ひたるさまなと梅(コ)染(ア)大

納言(ナ)のもとをあなくてふ(ン)へうまとも
うつゝのあ(ン)うのまゐ(ン)ふ(ン)ふ(ン)ふ(ン)
とふ給(ル)うのあ(ン)ちうくれ(ン)く給(ン)
うのう(ン)ふ(ン)ふ(ン)ふ(ン)ふ(ン)ふ(ン)ふ(ン)
ふ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

きてやひのみてまゐりたまへるを
入れもてまゐりたまふをとりて
うなる物との給ふを
うらいでんことをつゝしみもえ
ふるこの君のまろ
なれと

源氏

つまの男のうへの装ひをみつゝ
袖も香うしめたるに
つゝきさまの色あれいとめ
ものそよおもひたるそおかしき

源氏

十納言ノヨシヒ初参ノ事シ下心ニ入テヨミ入リ

源ノ小君カキノ根ヲ尼ノ生タテ有リケルトロヨセテ
ふうふうと
のたまふ尼ぎみのこと
尼云
ゆゝしくこうひうの
ゆみ山のこと

源ノ云ク人ハ木ノ本ニ
ヤトリヲスルモノ
ナリケリ

高光集
奥山の苔のたもとかわかねとも
やまの人はくなれぬせうそこ

尼君の初参のおり
まゐりたまへるを
源ノ
ふうふうと
尼君
ぬのこのこと
尼云
つゝ
尼云
とのたまへるを
尼云
ぬのとうやのなう

上ニ佛ノ御ムスメハクラヰニヘテモサフニタカフニカナル物シトノ石家ニ又佛

（ゐ月比七八年ノ二年シ云
みうらやまもとくはゝ
やまとも思ゆへらるゝなるへし
天さかるひなの（鄙）やまもともまもれと
おもほゆるかなの（大内）
つきの光のおもてをくもそ（曇）
みやこ（都）へゆきて叶くらん山さと風
まさくもみるもとくとの（僧）
歩へめともやなる
（佐）うとんけの（ケ）花まちそくる
うらうらとおし（照）なへてかすみ
ひとしひとくさもえもの（カメキ）
ひとつをはうへてこそ山櫻より
大徳
おく山の松のよはひ（齢）にしかまし
（勝王出世之時ヒラク花ナリ）
（時ノ卑下）
花のかをみるのなかき（大トコノ老僧ヲ含ム思ヤルベシ）
（源ノ）
（添ノ）
（聖徳太子）
（佐ケ吉表紙）
（聖徳太子六歳ノ冬十月自百済國
（源ノ）
（思ヤルベシ）
（源ノ）
（聖徳太子）
（佐）
（ヒジリ）

物とも さ海く（京へ）
まそりの山のかまでありくへ
経なくて出給ふ（ぬきおノイ）ら（法）ん 御部ひ
志まゐまひやうし法へ（尼行）とも
そ叩くるをゐ（法）心ひ
すくてうとととうとの
すさ海よひとをあれをやひう
うく御前のりてなるちいされ
夕海くれのふ花の色をみそのさうすみ
のさうまうら法の色
さいとやえのあるまはして
うのひとを紙もみんとのうてめいやうく
まのおるとうをそのうへ（去）法へ
大殿（養ノ又）もとめちとなくておりまうけ
あやくて法ひのへ人くをさ
法へ今と法中のた中弁さうめもらーよひやし
てうやりのおとをつうさうりゆんと思
おろをあきまーやそうをおへうあやくうう
んやしてやいうされのう
すさひ（松）さうるまんそあの
おつしのくれのうけのうの色よなをのくうつけ
さいるおちるれさ海なとゆへうるをと

京へ
（ぬきおノイ）
尼行
法
（ヨトセイツトセ）
（法ノ僧移（ナシ）ノ又ノ又ニフシ居ニ僧法）
（居モ僧モ同心）
（法）
三
（法ノ僧移（ナシ）ノ又ノ又ニフシ居ニ僧法）
養ノ又
去
法
松

なりけりやまとことばなりけりをまことのあめつちのこころとしてとよろづのことのはとなれりけるやうやうこゝろおごりやすくなりもてゆくにつけてあだなるあらそひのみしげくてうたのさまもしらずなりぬるをいにしへのことをおもひいでゝよみけるうたなりけりそのなかにもとりのあしあとのごとくにてをかきつらねたるやうにみえけるをみてかのくさのおやのこゝろをしりけるとかやいへりけるとかやいへりけるとかやいへ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

（尼ノ合点ナキ言トコトハト云惟光モ同事ニ添ヘ）

（尼ノ朝ノ光ト）

（尼ノ大納言ノ家ニ）

（源ノ）

（里ノ前ノ花ハ若ヤカニ出玉ノ）

（源ノ）

（源ノ）

（大内）

（二条院）

（源ノ）

（無理）

（源ノ）

（源ノ）

（源ノ）

（帚木）

（源ノ）

（大方ノ若ノカメデタナラズ）

（源ノ）

（源ノ）

（源ノ）

（玉カノ取ハ言語ニ半習）

（源ノ）

（山吹ヨリ此ニ至ル迄ハ思モ寄ヌ事ニテ）

密通之歌ナレハ名ヲカクシテ文下書是作者ノヨミツカヒナリ

六拍二

（消息ヲ含メリ）伊物ニシテ玉カヾリノトノ三日お

のなるまでをそなたの七月ばかりまでにかならずかならずとのみ
ほのめかしてうちなくなどするにつけてもいとあはれにかなしくおぼえ
おやをおもふこころのやみにまどひてかくはかなきものをたのみ
そめけるをいとかたじけなくもあはれにもおぼしわたるにつけて
いとどなくなくまどひぬるをいかにおぼしなすにかあらむ
まふつうまいりをのみ待ちえたまはぬをのみ
のひかくそのうちのたまふことのはもなくてすぐしたまふ
さるべきにこそはありけめとおぼしなりぬるにやあらむ
尼の病ひのみ成り増さるを聞きたまひて
とみにもえ思しやすらはで
尼松浦

みつよつばかりなるをかしげなるをうちつれて
さまざまのものもとめたまふらむこの月ばかり
のおこりに
六条京極アタリ九ツ三ツ四ツ五ツ六ツ七ツ八ツカ九ツ
秋のすゑつかたいとものあはれなるころ
のおこりに思ひよわりたまへるさまいとあはれなり
ひとところをのみ
ながめいたうふけてそなたの
空をながめやりたまへるさまいとあはれなり
みてこぐらくみしるありまの
をなれぬ程なるまでこぐなんこころぼそき
一旦物ぐるほしきまでふきまよひたる

いさうよりうと泊まるをなむ
なんや侍らやの御ましへ（添カ）云のことやとふらふを
（いそぐ）
るをけうとなどうさなと（添カ）物を
（青表）
うこをようその泊へ人いまこ
とうさうもを泊へろおやこ
てうくはとふくひよるんを（添カ）
るなこ（尼カ）ろさてのやうくうつ
日ごろひぎよいやたのをくお
まで泊る（添カ）ひんなこをうれま
もをんそうこうそ而人
ひそうまを（添カ）いやうくう（尼カ）ムサクトシタル生霊
まことをふくるんゆくろう（ウケツケニ心モシオスデニツラヌサニ）物うのきれまて
泊（添カ）なこそ而御（添カ）をまおまうひく
おさうつよ思ひうなこ（添カ）うひれぬま（添カ）
のこりくおさを泊よ作くまれ
泊（重）事をもくととこけのう
おさやおし給（尼カ）ふ（本カ）ちいの
つうさうのさ泊よあそ泊
ちううを泊へうよこ（望ノスデ）事を
そうこのすちぬうやう
泊（尼カ）うそなそ（リテヤロラ）
そま人させ泊へいこ（尼カ）ひ

うひまうし給まゐりたちいさくて（小出ノ文ノ名ナイサノ八文ノ）
いもうとなどいとうつくしきほどにて（原）
まなづるおうえうなどおなじやうにて（ハ言ニハス）（場にてくくるアリ小舟ノ名ナリ人々云々）
おさなくうえうなどいとへもいとも（ハ言ニハス）
そやのてんをなどいとうつくしうて（ハ言ニハス）
ともそせのみこなどいとすずろに（ハ言ニハス）（ハ言ニ女御言ヒテ山寺ノイヌル）
てゐて（ハ言ノ上ニ）まさうなどいとあはれに（ハ言ノ上ニ）
ゆかしきものにおぼしたり（ケ合）
ありわたりのきうれとおぼしたり（原）（ハ言ノ上ニ）
いまはなくおぼしみだれたるころ（ハ言ノ上ニ）
うちてうぶなどいとあはれなり（ハ言ノ上ニ）

同根一枡

さうどうなどいとしきりにとあつまりて（ハ言ノ上ニ）
走出られてくもまもみどりなるやうに（ハ言ノ上ニ）
てんきなどいとつれづれなるをみんなひろにて（ハ言ノ上ニ）
ひのくれ程へのわう菓子（カナツキ）（紅葉ノ賀ノイエノ子キノタ）
てしまひなどいとあはれなり（ハ言ノ上ニ）
め殿上人などもとりわきてまゐりつつ（テン）
らをのへもみぢなどいとおもしろきに（シト）
のあそびなどいとおもしろきに（原）
さうのことどもひきならしなどいとおもしろきに（ワザトノイ）
うたなどいとおもしろきに（撰）
うへのきぬなどいとなつかしきに（ハ言ニハス）
国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

くをのうれやまし給ふも理
けくもやまをまをかれ給ふあや
おりふしの空をながむるなるほどの
方ふみぶれ給ふよ無
面をうつうまつま心ぬさなくりそうのあな
とのおの妻子ども出給ふ
乳母カ事アリカホニハイハヌモノカラカホスキコトモ昌出行リ光ト云シヲ惟光ニ行トナク云シ惟光モ又ハ審
多いよものなるうんとひ給ふ
惟光
無
とあいおれいくうるひ
やおもをいよひ
給ふ
源ノ好色メキ名
つらしうさなるよ
源ノ好色メキ名
ひろなと
思ひ給うんお
ひをもひなひそ
コレミツナニトカシモウ
ひて
うの人もこうひ
給ふ
昌出行リ光ト云シヲ惟光ニ行トナク云シ惟光モ又ハ審
ふうんとひ給ふ
惟光

源ノ惟光ニ
ひ給ふ
らうまをさそうひ給ふ
れもちしてうるくしうのめよひとりや
をもうえんなと作くまいへてん
やおもをいよひ
給ふ
コレミツ
いれたりよをそまもそ
てこのうれ給ふをろうもあ
つうう源ノ惟光ニ語ル
ひうの色うその給ふ
もくくしてうん年
もおをうふひがそうおみてと思ひそれ
てとをくなふひそ
言
[ヲシコロニ]
惟光
別
尼云ノ
ヲ納言
ヲ納言

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

端厳如天后天無心柔濡 花厳経

四十六牧アリ

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号